

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103805
法人名	医療法人 福井整形外科麻酔科
事業所名	グループホームふくい
所在地	松山市高井町795-1
自己評価作成日	H27年 12月 25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体である、医療法人福井整形外科麻酔科と日常的に連携を図っており、健康面では些細なことでもすぐに相談し、早目の対応が取れるようになってきている。出来ていることが継続されるようにリハビリにも積極的に取り組んでいる。また、日常生活の中で、利用者様と職員が共に生きていく生活の場となるように日々コミュニケーションを取るようになっている。毎日笑顔を絶やさず、心穏やかに楽しく生活出来るように一人一人ではなく、みんな一つにまとまって介護に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●秋のバザー開催前には、運営推進会議で地域の方等とバザー運営について相談しており、バザーで販売する野菜等は、地元農家の協力がある。今年度は協力農家が6軒に増えた。又、餅まきをしたり、理事長がラーメンを振る舞う等、みなで楽しめるよう企画されている。地域公民館で開催される地域のバザーには、利用者の作った編み物や人形を出展しており、利用者全員で出かけている。又、地域の夏祭りでは車いすの利用者も盆踊りの輪に入り、一緒に踊って楽しんでいる。よく利用する近くの鮮魚店は、食事の時間に合わせて煮付け等の調理もしてくれる。事業所前にはベンチを設置して散歩中の方が休憩できるよう工夫しており、今後は、さらに、地域の方が気軽に訪ねて来られるよう工夫したいと話していた。
●地域包括支援センター主催で地域内10グループホームが集まり、勉強会を行っている。新人職員向け、5年目の職員向け、管理者向け、ケアマネジャー向けと分けて、グループワーク中心の勉強会となっている。各事業所で作っているおやつを持ち寄り、お互い参考にする機会もあった。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームふくい

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 栗林 愛

評価完了日 H27 年 12 月 25 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者と職員は介護理念を理解し、ミーティング、カンファレンス等で再確認しながら理念を共有し実践につなげている。 (外部評価) 「心に寄り添える生活ライフ」という理念を作っており、理念を「安全で楽しい生活」「笑顔で思いやりの気持ちを持つ」「皆で共に生きよう」「社会とのつながりを大切にしよう」と具体的に示して、台所内に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会の行事や作業には積極的に参加している。また施設の行事には町内会からの参加もあり、地域の一員として活動している。 (外部評価) 秋のバザー開催前には、運営推進会議で地域の方等とバザー運営について相談しており、バザーで販売する野菜等は、地元農家の協力がある。今年度は協力農家が6軒に増えた。又、餅まきをしたり、理事長がラーメンを振る舞う等、みなで楽しめるよう企画されている。地域公民館で開催される地域のバザーには、利用者の作った編み物や人形を出展しており、利用者全員で出かけている。又、地域の夏祭りでは車いすの利用者も盆踊りの輪に入り、一緒に踊って楽しんでいる。よく利用する近くの鮮魚店は、食事の時間に合わせて煮付け等の調理もしてくれる。事業所前にはベンチを設置して散歩中の方が休憩できるよう工夫しており、今後は、さらに、地域の方が気軽に訪ねて来られるよう工夫したいと話していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の中で事業所の内容や利用者様の事を伝えているが、まだまだ理解を深め貢献までには至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 地域の行事やホーム内での行事を伝え、つながりを持てるようになってきている。避難訓練への参加や実際に抱えている問題を話し合えたりする機会が持てている。</p> <p>(外部評価) 消防訓練や事業所行事と併せて会議を行っている。毎回ご家族に案内するが、行事のみの参加となっている。6月の会議時には、災害時の地域との協力体制つくりに向けて、参加者に事業所内を見学してもらった。会議前に席に着席する利用者には、会議に参加してもらい、自己紹介をしてもらっている。</p>	<p>統括責任者は、会議の進め方や内容についてどのように取り組んでいくことが良いか考えていた。事業所と地域、ご家族等が相互理解、協力できるような関係や体制を作っていける会議となるよう、さらに工夫を重ねてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の状況など、日頃から連絡を密に取り、出来る限り連携を図れるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター主催で地域内10グループホームが集まり、勉強会を行っている。新人職員向け、5年目の職員向け、管理者向け、ケアマネジャー向けと分けて、グループワーク中心の勉強会となっている。各事業所で作っているおやつを持ち寄り、お互い参考にする機会もあった。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 内部研修、外部研修及び勉強会を積極的に行い、知識を深めることで身体拘束をしないケアの実践に努めている。</p> <p>(外部評価) 玄関は施錠せず、自由に出入りできるようになっていた。身体拘束については、たとえば、車いすの利用者の場合「テーブルや壁の位置によっては、ご本人の行動を制限してしまう」ことを、管理者はその場で職員と、利用者の立場に立って話し合うようにしている。「外に出たい」という方には、一緒に近くを散歩している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングなどの勉強会で学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。また研修会にも積極的に参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者・ケアマネは理解や活用できていると思うが、スタッフは学ぶ機会がない。自分自身理解は出来ていないように思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書に沿ってゆっくり説明し、具体的に例を挙げながら行えていると思う。途中で疑問点を尋ねるようにしたり、質問に答えながら納得した上で契約を締結している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者から要望は、日々のケアの中で聞くことが出来ている。家族などの意見は、電話や手紙、来訪時などで少しずつ聞き出す努力はしている。しかし、全員ではないのでもっと聞き出す努力は必要だと思う。 (外部評価) 毎月発行する「ふくいだより」とともに、利用者個々の担当職員が利用者の身体、生活状況について手紙を書き同封している。ご家族の来訪は全体的に多くあり、その都度、日々の様子を報告して要望を聞くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 個別やミーティングなどで意見や提案を聞き、反映できるようにしている。 (外部評価) 昨年8月に、統括責任者、各ユニット管理者の交代があり、新体制となっている。年2回、職員個々に自己評価して、各ユニットの管理者と面談する仕組みを作っている。毎月ミーティングを行っているが、職員から「職員間の情報伝達がうまくいっていない」と意見があった時には、臨時ミーティングを行い、早期解決できるよう取り組んだ。食事作りが苦手な男性職員は、力が必要な入浴介助等を率先して行っており、女性職員は料理の腕を振るう等、職員同士得意なことを活かして協力し合って取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の状況を把握し、向上心を持って働けるように努めていると思う。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の勉強会にはそれぞれ担当を決め実施している。法人買いの研修にはそれぞれの職員にあった研修に参加できるようにしていると思う。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 交流会や相互研修に参加することで、他のホームの方と交流する機会を作り、学んだことをホームで伝えている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 出来る限り、利用開始前に情報収集したり、ホームへ見学に来てもらったりして、安心出来る環境づくりが早く出来るように心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前や契約時にゆっくり話す時間を設け、今後の生活の意向など出来るだけ不安が少ないように心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに入居できる現状ではないので、申し込みや利用の相談時に他サービスの利用など今出来る事の支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 基本理念にも掲げているように、心よりそえる生活を、日々実践出来るよう関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月お手紙で様子をお伝えするとともに、些細なことでも上司に報告しご家族と連絡、相談できるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人が大切にしていることや物の話を聞き、支援出来ることは続けていけるようにしている。 (外部評価) ご家族が利用者によくかかわっており、月1回、又は年2回、自宅に戻る機会を作ったり、墓参りやご実家に出かけることもご家族が支援している。友人が訪ねてくれる時には、職員が仲に入って会話がスムーズにできるようサポートしている。利用者が友人に電話したい時には、職員が取り次いで関係を続けられるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士はリビングでよく話をしている。とくにテレビを観ながらの場面が多い。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても、バザーへの参加や季節の挨拶の交換をしたり、相談に応じられるような関係が保たれるように心掛けている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人一人の思いや希望に応えられるように支援している。 (外部評価) 日々の様子は「24時間生活変化シート」に記入し、「利用者が言った事」「家族が言ったこと」「スタッフが気付いた事」が分かるようにしている。ケアマネジャーは、毎日利用者全員からじっくりお話を聞き、思いを知ることにも努めている。ご家族からの情報や職員から聞き取った情報をもとに、半年ごとにアセスメントシートの情報を更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでどのように生活してきたかご本人やご家族に話を伺い、同じ暮らし方が少しでも出来るように考えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録で情報を共有しながら利用者の生活パターンを崩さないように支援している。また新聞折りや散歩などの提案を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			月1回のカンファレンスで出来た点、出来なかった点、難しい点などの意見を出し合い計画を作成している。	
			(外部評価)	
			3ヶ月に1回の介護計画確認の際には、ご家族に利用者の生活について意向を聞くための用紙を郵送しており、全員から返事がある。介護計画内容の中からご家族や利用者の意向を踏まえて重点的に取り組みたいことを決めており、「ケアチェックシート」を作り、毎日○×でチェックして1ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			利用者に対しての気づき、発語、情報などは記録や申し送りではほぼ出来ていると思う。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			その都度、ニーズに応えられるように色々な可能性を含めて話し合いが出来るよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域資源の活用には至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体の医師が月2回往診があり適切な医療をその都度提供できるように支援している。他にも協力歯科医院往診月1回、医療連携による訪問看護週1回実施。	
			(外部評価) 月2回、母体医療機関の医師の往診がある。又、週1回、訪問看護師の訪問があり、利用者の健康管理をしている。週2回、利用者全員が母体医療機関にリハビリに通っている。利用者個々に「医療関係記録」を作成し、往診やリハビリ通院の内容を記録しており、ご家族からの希望があれば提示している。年2回、長谷川式スケールを職員が行い、母体医療機関に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週1回の訪問看護時に気付いたこと、相談したいことを伝えている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 日常的に利用者の方々の情報共有や相談を行い、病院関係者との関係作りは出来ている。また協力医療機関以外へ入院した場合にも密に訪問し、早期退院が出来るようにしている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の意向とホームで出来る事を何度も話し合い、方針を決めている。看取りを行う際、職員の負担もできる限り増やさないようにチーム全体で取り組めるようにしている。	
			(外部評価) 利用契約時の看取り指針の説明時に、「ここで最期まで」と希望する方がほとんどのようだ。食事量の低下や肺炎等で医師から「看取りの段階」と判断があれば、再度ご家族に状態を説明し、支援の意向を聞いている。看取り支援の体制として、母体医療機関の医師以外に、24時間対応してもらえる近医にも協力をお願いしている。2年間で3名の看取りを支援した事例があり、職員は、まず、ケアカンファレンスを行い「職員全員で看取る」ことを確認している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時対応や事故発生時の対応について年1回勉強会をしている。しかし実践力が身につけていつとはいえない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、避難訓練に参加し、その方法を確認している。地域との協力体制をお願いしているが、いざというときに協力して頂くためにはもっと体制を築いていく必要があると思う。	
			(外部評価) 年2回の消防署立ち合いの下の避難訓練時には、毎回利用者の搬送方法を変えて試している。毛布を使用したり、座った状態での搬送、1人、2人で搬送する方法等、実際に行ってみて、夜間の避難、又、男性利用者の搬送等については不安な点もあるようだ。災害時、近隣の方には、非常口から避難した利用者を安全な場所で見守ってもらうことになっている。	利用者の状態やいろいろな災害の場面を想定して、課題の解決に向けた話し合いや訓練を繰り返してほしい。又、地域との協力体制作りに向けて、地元消防団との訓練の実施や地域の防災訓練への参加にも取り組んでほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室に入る際は必ずノックをしたり、トイレを使用している際にはトイレのドアを閉め、プライバシーやご本人の羞恥心に配慮した支援を行えるよう努めている。	
			(外部評価) 利用者に対し「ご家族のように親しみを持って接したい」という思いで、ご家族と相談して、職員は、利用者を名前や以前からの馴染みの呼び方で呼んでいる。又、利用者と同じ目線で会話する事に心掛けており、調査訪問日の昼食後、利用者の横に座ってゆっくりした雰囲気でお話していた。又、他利用者の世話をする利用者があり、利用者同士のやりとりを職員はそっと見守っていた。後で、職員は、世話してくれた利用者にお礼を言っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴することや待つことを意識し、ご本人の希望や意思決定ができるよう支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) それぞれの個々のペースに配慮し生活を送っていただけるよう努めているが、希望に添えないこともあり、しっかりとお話をすることでご本人にも納得していただけるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時には一緒に服を選んでもらえるよう支援に努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者それぞれの嗜好を把握しながら、それに少しでも沿えるよう努めている。料理の準備など、できる事を一緒にできるよう支援している。	
			(外部評価) メニューは各ユニットごとに職員が決めている。生野菜や固い野菜が嫌いな方が多く、柔らかく煮る等して野菜を食べられるよう工夫している。調査訪問時、職員も利用者と一緒に食卓を囲み、同じものを食べながら「今日の味付けはどう?」「夜はカボチャを炊くよ」等と利用者と話していた。利用者の中には、ご自分の食事を運んだり、食器拭きをする方がいた。週2回、リハビリのある日の昼食はお弁当の配食を利用している。正月にはおせち料理、七草、節分、ひな祭り等、行事に合わせたメニューで楽しめるよう支援している。週2回ホーム前にパンの移動販売車が来ており、1人1つ好きなものを選び、おやつにしたり朝食にしたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 季節を感じる野菜を取り入れることや個々の状態に合わせた調理の工夫を行っている。また利用者の希望も取り入れバランスよく食べていただけるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアが習慣となるように声かけを行い、出来ない所は援助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを把握した上で日中は声かけ、誘導にてトイレに行っている。夜間はオムツを使用している方が多い。	
			(外部評価) 排泄の失敗を少なくするために、早めに声掛け、トイレ誘導を行っているが、うまくタイミングが合わない場合もあるようだ。頻回にトイレに行く方には、他のことに気が向くような支援にも取り組んでいる。夜間介助の必要な方には、ベットに鈴を付けて職員を呼べるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の内容や十分な水分量の確保、適度な運動が行えるように支援し、便秘予防をしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午前中に入浴してもらっている。状態により職員二人で介助を行い安全に入浴できるようにしている。	利用者が入浴をさらに楽しめるように、一人ひとりの入浴習慣を知ることに取り組み、希望回数や時間帯等を探りながら、利用者本位の入浴支援に取り組んでほしい。
			(外部評価) 入浴日は週2回と決まっており、それ以外の日に希望があっても職員の配置等の都合もあり、希望に沿えないことがある。全員湯船で温まれるよう支援しており、長湯を好む方が多い。体を洗う時は、浴室床に正座することが習慣になっている方がいたり、一番風呂が良いという方には利用者同士が話をして譲り合っている。男性利用者と男性職員で温泉の貸切風呂に出かけ、入浴を楽しんだこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の方への目配りや表情から声かけし、安心して休んでいただけるように努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員間で確認しあい、自分でも再度、名前、日付確認をしている。一人一人の使用している薬の目的、副作用まではすべて把握・理解しているとはいえない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人にあった気分転換の仕方や役割などして頂けるよう声かけに努め、張り合いを持っていただけるよう支援しているが同じ活動内容が続いている。新たなことも見出していきたいと思う。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月1~2回、前もって計画し外出、買い物に出掛けている。しかし本人の希望に寄り添って出来ているものとはいえない。ご家族とは自由に外出できるように支援している。	
			(外部評価) 利用者個々に希望があれば、買い物やドライブに出かけている。又、職員が用事で外出する際には、利用者を誘って外出する機会作りに工夫している。日常的には、近くのお寺までお参りに行く等、散歩しており、途中の自販機でジュースを買うこともある。花見には、ご家族も誘い、利用者全員で道後公園へ出かけた。道後のホテルでバイキング形式の昼食をして楽しい時間を過ごしたこともある。月2回は、全員で回転すし等の外食に出かけている。毎年、夏の夜には、近所の割烹料理店に出かけており、利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人希望にて買い物に同行し、使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望に沿った支援をするようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	全員が不快な思いをしないように配慮し、心地よく生活できるようにしている。	
			(外部評価)		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	一人で過ごしたり、利用者同士で過ごしたりと場面場面に添えるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	ご本人が安心して生活していただけるように使い慣れたものなどを使い、居心地よく過ごせるようにしている。	
			(外部評価)	壁にお好きなチラシや楽しかったイベント(サーカス)のグッズを飾って楽しんでいる方がいた。お好きなギターを持ち込んでいる方は、他利用者の前で披露することもある。好きな音楽を好きな時に聞けるよう、ラジカセには、操作が分かりやすいように表示していた。ご自分で照明を操作できるよう、紐を長くしているところもあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	出来ること、分かることを続けていけるよう安全に生活していただいている。	